

シャグマアミガサタケ *Gyromitra esculenta* (Pers.) Fr.

子囊菌門 *Ascomycota* チャワソウタケ亜門 *Pezizomycotina* チャワソウタケ綱 *Pezizomycetes*

チャワソウタケ目 *Pezizales* フクロシトネタケ科 *Discinaceae* シャグマアミガサタケ属 *Gyromitra*

供試標本

茅野市八ヶ岳総合博物館標本菌類 F-00092, 2012年5月16日, 長野県諏訪郡富士見町境(小六), 小山明人採集。

肉眼的特徴

子嚢果は高さ 104-187mm。子嚢盤は高さ 47-92 × 58-121mm、細かいシワ状で全体として大きく不規則に波打ち暗赤色から暗褐色。裏面は白色で微毛状。粘性はない。肉は薄くて白色。臭いや味は不明。柄は 70-129 × 7-25mm、クリーム色から淡赤褐色、棍棒状だが中ほどが細まるものも多い。基部は膨大して 34-52mm、大まかな縦のシワ状で白色の菌糸が薄く覆う。

顕微鏡的特徴

熱乾燥標本を用いた。子嚢胞子の観察には 3% KOH でマウントし、それ以外は 3% KOH にコンゴレッドを追加用いた。

托外被層は幅 14.5-50.3 μ m、平均 = 30.5 μ m (n = 27、実測)、球形から類球形、広楕円形の細胞からなる平行菌糸で被われる。肉眼的微毛状部分は菌糸が立ち上がる (Fig.A)。托髄層は幅 5.9-26.5 μ m、平均 = 16.3 μ m (n=27、実測) のたる形から矩形の細胞よりなる菌糸が平行からやや錯綜する (Fig.B)。子実下層は幅 4.6-14.0 μ m、平均 7.8 μ m のやや不整形な円筒形菌糸で錯綜する。子嚢は 153.6-158.1 × 16.6-17.3 μ m (n=2、実測)、円筒形で薄壁、有弁、頂孔はメルツァー液で陰性。8 胞子性 (Fig.C)。子嚢胞子は (16.3)18.9-23.4 (26.4) × (9.7)10.2-11.5 (13.3) μ m、縦横比 = 1.75-2.14、縦横比平均 = 1.95 (n = 50、ゼラチン状の鞘は含まない) で長楕円形、厚壁、平滑、無色で 2 個の小油球を生じる。ゼラチン状の鞘を生じるものが多く、厚さ 0.6-2.1 μ m で 3% KOH では溶解しないが水封下では不明瞭 (Fig.D)。側糸は幅 4.1-7.8 μ m、頭部は鈍頭からやや球状に膨らみ 5.9-8.6 μ m、平均 = 5.3 μ m (n=22、実測)、褐色で隔壁があり、下部で分岐する (Fig. E)。

生態的特徴

供試標本は標高 1190m のアカマツ林内で散生。採集時期は 5 月中心だが 10 月にも採集された。また、F-00005 は八ヶ岳連峰西岳の標高 1900m、コメツガ、ウラジロモミ林である。

ノート

文献 1,3,4 の記載と一致する。文献 2 は子実層以外の内部は偽柔組織であるが、本標本では托髄層や托外被層は異なる。

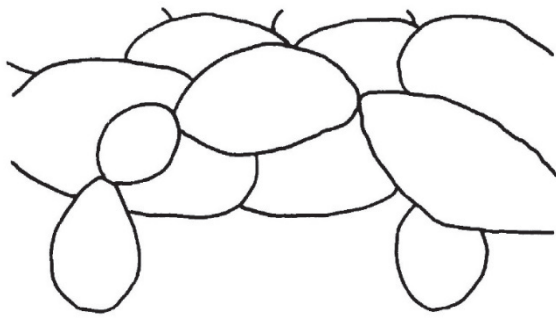
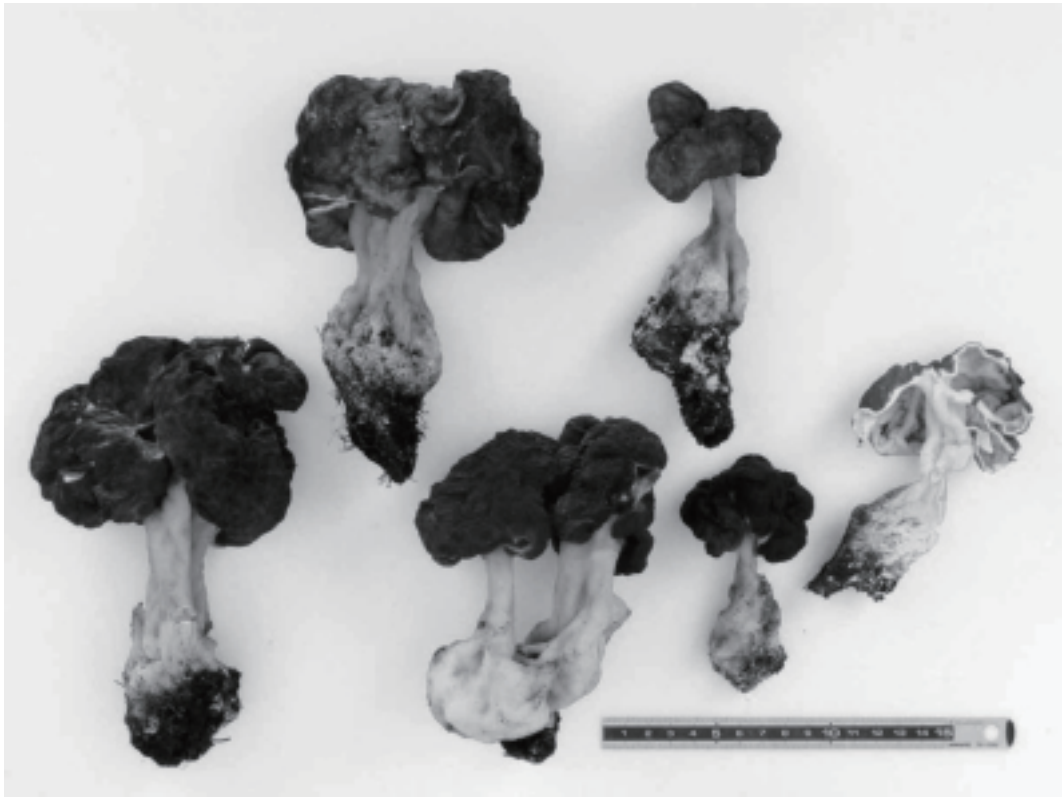
参考標本

F-00002, 2015年4月22日, 茅野市泉野(小屋場上), 上原妙子採集; F-00003, 2015年4月30日, 茅野市泉野(柳川), 上原裕雄採集; F-00004, 2015年5月1日, 諏訪郡富士見町境(小六), 市川浩久採集; F-00005, 2015年5月6日, 諏訪郡富士見町立沢(西岳), 市川浩久採集; F-00006, 2015年5月19日, 諏訪郡富士見町立沢(西岳), 市川浩久採集; F-00079, 2015年10月4日, 茅野市豊平(チェルトの森), 松本宏子採集。

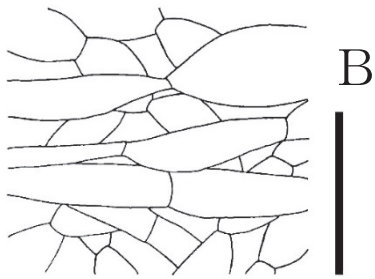
文献

- 1 川村清一: 原色日本菌類図鑑第 8 巻 :810, 風間書房, 1955
- 2 青木実: 日本きのこ図版第 6 巻 :16, 日本きのこ同好会 2, 2008
- 3 Breitenbach & Kränzlin, Fungi of Switzerland 5:50, 1984
- 4 Fries, Summa vegetabilium Scandinaviae 2: 346, 1849

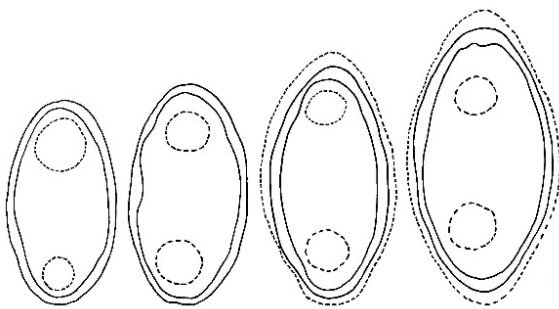
担当 市川浩久、上原裕雄、小山明人、富澤愛子、中島年雄、藤崎弘子
監修 国立科学博物館植物研究部 細矢剛



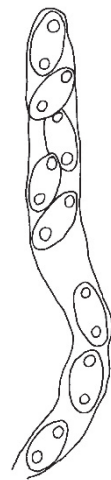
A



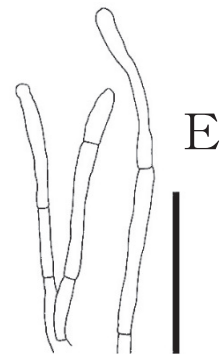
B



D



C



E

スケールバー A、B、C、E 50 μ m、D 10 μ m